



SUNWOOD reform news

Vol. 29 室内のアクセント

寒さの厳しい日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

平素は、格別のご厚誼を賜り、心より御礼申し上げます。

さて今回は、室内のアクセントになるニッチとアクセントウォールをご案内いたします。

壁紙や石、タイル、木材などのさまざまな素材、色、デザインを組み合わせることで、住まわれる一人一人の好みに合わせた室内空間をつくっていくことができます。ぜひ、ご一読ください。

ニッチは少ないスペースでも効果を得る空間アクセント

エントランスやリビングなどの壁面や柱に穴が開いていて、そこに花瓶を置いたり絵を飾ったりしている住宅を目にすることがありますが、その部分が『ニッチ』です。

『ニッチ (niche)』とは隙間という意味で、もともとは西洋建築の用語で「壁の凹み」のことを言います。現在では、建築よりマーケティングの分野で頻出するようになった用語で、壁の凹みを「隙間」のイメージに捉え、「潜在的な需要がありながら、誰も手を付けずに隙間になっていたような分野や市場」をニッチ市場やニッチマーケットと呼ぶようになりました。

ニッチは小さなスペースで出来るインテリアデザインで、大きな視覚的効果を得ることができます。ニッチの中にダウンライトをはめ込んで、まるで美術館のような雰囲気 연출することもできます。背面にモザイクタイルや石を貼ったり、アクセントクロスにしたり、周りとは異なる仕上げにすることでより印象的になります。

インテリアの一部として使われることが多いニッチですが、見た目の面白さだけでなく収納をすることが出来るため、機能的に活用できるメリットもあります。大好きな小物や書籍、CDなどのオーディオグッズなどライフスタイルにあわせて様々なものを置く場所になります。用途はまさに住んでいる人次第です。大きさや家のどこに配置するか、数などその組み合わせ方とアレンジでオリジナルなインテリアができあがります。



ニッチの背面にはモザイクタイルとフロストミラーを使い、ガラスの飾り棚と照明でエントランスホールを演出。
(モザイクタイル : Maristo/FSS-25/SP)



凹凸感のあるタイルで照明の光が生み出す陰影も楽しめる。



リビングのソファ背面に横長のニッチを小物のディスプレイ空間として。

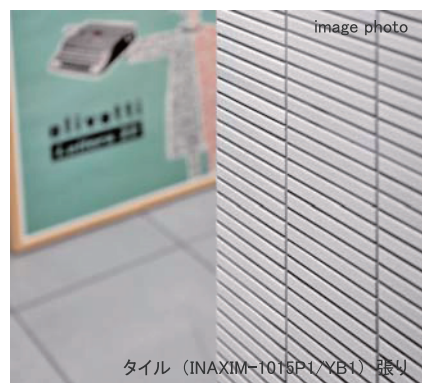
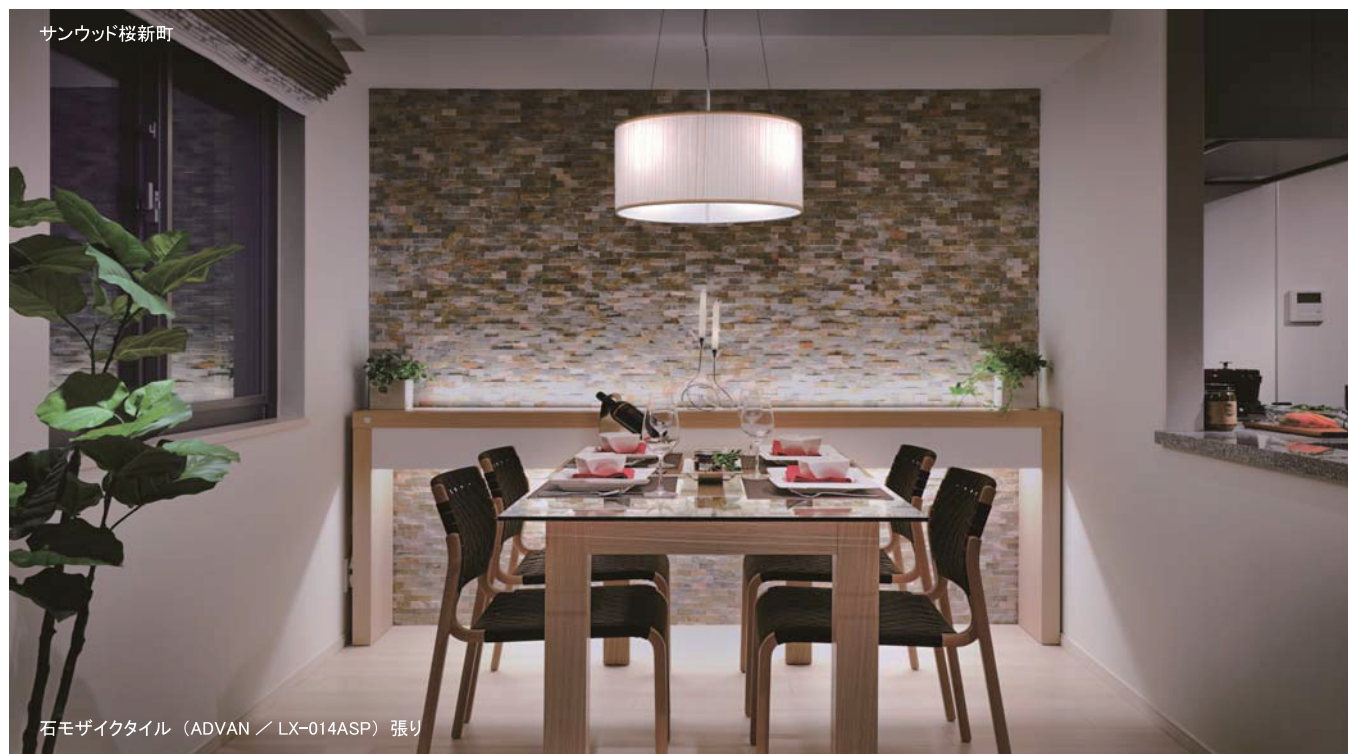


小さめのサイズのニッチを照明と組み合わせて際立つ存在に。

空間を演出する仕掛けになるアクセントウォール

アクセントウォールとは、部屋のインテリアに強弱（アクセント）をつけるために、材質、色、柄などを変えた壁のことを言います。前回のリフォームニュースでご紹介いたしました無垢材のデザインウォールのほかにも、海外のインテリアでよく見られる大胆な柄物の壁紙や独特の風合いのある塗装仕上げの壁にしたり、素材感のある天然石やタイルを使ったりなどさまざまな種類があります。アクセントウォールはその色や柄によって空間を癒したり、贅沢な気分になさせてくれたり、楽しませてくれたりと室内の印象に大きく影響を及ぼしてくるものです。壁の存在感が増すことで、見慣れた家具やアートが引き立ちます。

例えば、寝室はベッドのヘッド側の壁をアクセントウォールにすることでホテル風のリラックス感ある空間になったり、家族が共同で過ごすことが多いリビングでは色調はおさえ気味にしてベース部分とアクセント部分を同素材で色違いにしたり、柄物でも同じ系統の色を選ぶと和やかな馴染みやすい空間になります。



アクセントクロスであれば手軽に印象が変わる

壁の仕上げの素材や色の変更は、間仕切りを変更せずとも行うことが可能なので比較的手軽に施工することができます。

例えば壁一面（約4m×約2.5m）を上代1,000円／㎡程度の壁紙に張り替えた場合、工事費は約8万円（参考価格、税別）。

お手持ちの家具や調度品がどのような色や素材で映えるのか、アクセントウォールの持つ個性を活用して空間をデザインされてみてはいかがでしょうか。